

〈第23回環境システム計測制御学会（EICA）研究発表会〉

開 催 挨 拶

環境システム計測制御学会 会長 田 中 宏 明

素晴らしい秋本番の信州，諏訪市で，第23回環境システム計測制御学会（EICA）研究発表会を開催するにあたりまして，一言ご挨拶申し上げます。

研究発表会開催に当たり，地元諏訪市，長野県，また花里先生はじめ，信州大学の皆様方には多大なご協力をいただき，誠にありがとうございます。この場をお借りて御礼申し上げます。

さて，この諏訪の地は，私にとって思い出多き地があります。10年あまり前に，建設省や長野県が地元の方々とともに「泳げる諏訪湖」を目指した水質改善計画を検討されておられました。その際に，お手伝いをさせていただいたことから，何回か訪れる機会がありました。諏訪湖は，この10年間に下水道の概成と流域関係者のご努力により，水質が大きく改善したと聞いております。今回，この研究発表会で，沖野先生，花里先生，長野県の方から状況をお聞きできることと思います。また，明日の見学会は諏訪湖と白樺湖が予定されていますので，水環境の改善状況の視察ができることを楽しみにしております。

さて，ご案内のように，この3月11日に発生した東日本大震災は，我が国と世界に大きな衝撃を与えました。この大地震は，規模が極めて大きいことに加えて，大津波による被害と原子力発電所の放射能汚染という未曾有の大災害となりました。日本学術会議は関係学協会に「東日本大震災総合対応学協会連絡会」の設置を呼び掛け，学会レベルでも，災害調査や復旧復興への提言など活発に行われています。環境システム計測制御学会といたしましても，24の学協会の一つとして「東日本大震災総合対応学協会連絡会」に参加を決定いたしました。EICAの立場としては，上下水道，廃棄物といった環境インフラの電気計装系を中心に被災状況を調査するとともに，将来発生しうる震災



の被害を軽減するための計画，設計と復興での技術的な提言をまとめていきたいと考えております。この内容は，本研究発表会のポスターセッションでも報告させていただきます。

また，震災を契機に，生活のあり方や社会構造のあり方の見直しが進みつつあります。環境インフラ，エネルギーシステムも，効率を重視したこれまでの集中システムから，より自立分散システムを目指す方向へと変化が見られます。復興段階に移りつつある今，集中と分散を連携させたシステムが，現地で求められるとともに，全国的にも低炭素型の社会が求められるでしょう。EICAの関係者の皆様は，これまで築き上げてきた計測制御技術を中心に社会貢献を行うことが必要となっていると思います。

本日は特別講演，基調講演，研究発表，懇親会，また明日は現地見学と盛りだくさんの内容ですが，この機会を通して，ご参加の皆様の研究成果の発表と情報交換が積極的に行われ，本研究会が盛会となることを期待しまして，簡単ではありますが，開会のご挨拶とさせていただきます。